

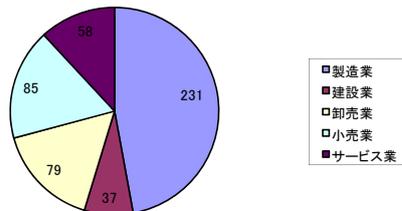
景気動向

業況は横ばい。
先行きも製造業、非製造業共に横ばいの見通し。

- 調査時点 平成24年1月調査(23年12月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 490社(回答率:61.3%)
(製造業231社、建設業37社、卸売業79社、
小売業85社、サービス業58社)
- 調査時期 四半期毎(3、6、9、12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	231
建設業	37
卸売業	79
小売業	85
サービス業	58



<全産業>

全産業の業況DI(▲19.0)は、前回(▲30.7)に比べてわずかに改善を示した。
業種別では製造業の業況DI(▲24.2)は、前回(▲28.5)に比べて4.3ポイント改善した。
建設業の業況DI(40.6)は前回に比べて大幅改善、卸売業の業況DI(▲30.4)、小売業の業況DI(▲28.2)は共にわずかに改善を示し、サービス業の業況DI(▲6.9)では改善を示した。
各業種からは、原発事故による風評被害の影響が未だ長引き、業況好転の兆しが見られない、という声が多く聞かれるのと共に、依然高止まりが続く円相場の影響に加えて、最近の欧州信用不安やタイの洪水被害の影響を懸念する声が聞かれ、それ故今後の先行きが見通せない、といった声が大勢を占めた。
3か月先見通しは、製造業で横ばい、非製造業はわずかに悪化を見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
12月末時点	-19.0	-17.8	-22.6	-4.3
9月末時点	-30.7	-26.2	-30.1	-12.9
前回比	11.7	8.4	7.5	8.6

■全産業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	23.9	19.8
悪化	42.9	50.5
DI値	-19.0	-30.7
前回比	11.7	-16.0

■12月末時点からみた

全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	23.9
悪化	42.9
DI値	-19.0

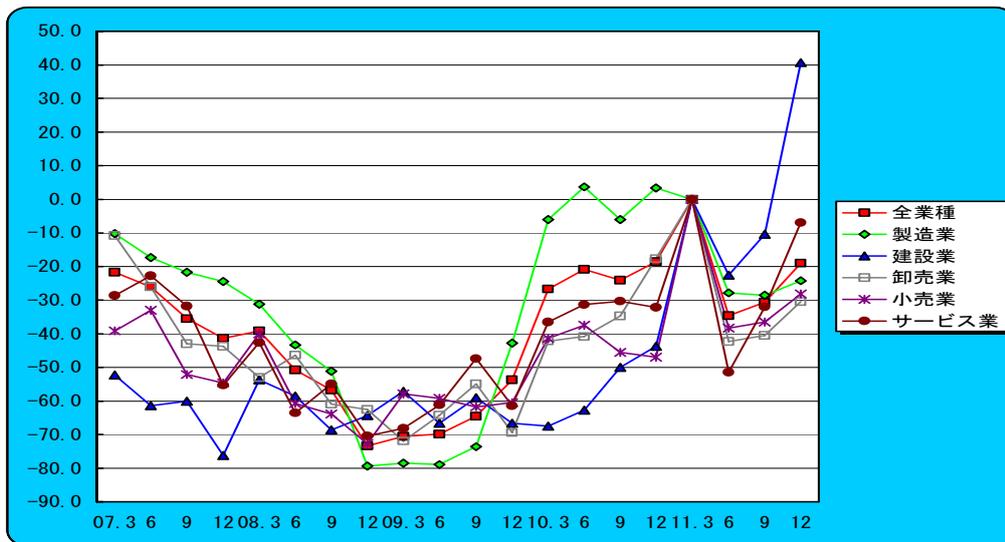
■製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	19.5	18.1
悪化	43.7	46.6
DI値	-24.2	-28.5
前回比	4.3	-31.1

■非製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	27.8	21.5
悪化	42.1	54.3
DI値	-14.3	-32.8
前回比	18.5	-4.1

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-24.2
先行き	-26.4
前回比	4.3
対象企業	374
回答企業	231

業況・売上・採算で横ばい、資金繰りでわずかに改善を示した。
業種別にみると業況は「木材・木製品」で改善、「食料品」「縫製」「金属」「精密機器」「プラスチック」でわずかに改善、「酒造」「ニット」「印刷」「一般機械」「電気機器」で横ばい、一方で「輸送用機器」でわずかに悪化、「織物」「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」で悪化を示した。
3か月先見通しは、業況・売上・採算で横ばい、資金繰りでわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「織物」「縫製」「木材・木製品」の業況は改善、「食料品」「印刷」はわずかに改善、「酒造」「ニット」「一般機械」は横ばいを見通している。一方で「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「金属」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」の業況はわずかに悪化、「プラスチック」は悪化を見通している。

「原材料の県産品が使用できなくなった」「円高、風評被害に加え、EU不況、タイ水害など不安要素がありすぎて先行きは暗い」「求人しても全く応募が無い」といった声の他に、「タイの水害などの特需要因が有り、現状は忙しい。しかし円高なことも有り、それ以外は決して良くはない」「昨年よりやや上向いたことは、震災支援事業による注文があった為で、今後の売上には期待出来ない」また「2月からの春物の受注は好調」といった声があった。

自由意見

- 製造業
- 関東地区での売上がダウン。かなりの風評被害である。 【食料品】
 - 原材料の県産品が使用出来なくなった。 【食料品】
 - 得意先の減少。(避難したり、亡くなった) 【食料品】
 - ギフトに関しては風評被害で減少。(他県に贈れない) 【食料品】
 - ストレスで従業員の健康状況が悪化。(検診の結果) 【食料品】
 - 風評被害で売上減少。 【食料品】
 - 原発事故の風評被害が徐々にひろがっている感じがする。 【食料品】
 - 従業員を募集しても全く応募がない。 【食料品】
 - 震災及び放射能被害の影響により、受注激減。12月いっぱいには営業するが、来年からは当分の間休業予定。 【食料品】
 - 風評被害が今後についても予測不能。かなりの実害あり 【酒造】
 - 一部風評被害による、受注減少、及び検査費用の負担増。県検査体制の整備、拡充が望まれる。 【酒造】
 - 震災後は、取引先が応援のため販売に注力頂いたが、今後風評被害の恐れや風化が進み、次年は厳しい環境が予測される。 【酒造】
 - シルクに関する繊維の市況は、これまでで最もひどい状況である 【織物】
 - 世の中全体の景気低迷により販売が低調のため、メーカーからの受注も少なく、来年の稼働も少ない見込み。 【織物】
 - 原発事故による風評被害によって個人客(県外)の売上は大きく減少している。 【木材・木製品】
 - 2月からの春物受注については好調である。 【木材・木製品】
 - 原発事故による放射能汚染の影響が思いがけないところにあられ、事業が(特に受注面で)低迷している。 【木材・木製品】
 - 災害復興予算が回り出せば、好転していくかも知れない。 【印刷】
 - いわき地区では年明け以降、震災復旧工事が始まるため、今後急激な需要が生まれてくるのが想定される。
しかし、業界がこれまでの公共事業等の工事量の大幅な減少に対応すべく、大規模な合理化を行ってきた為、急激な需要増による車輛、材料の確保が大変難しい状況で、対応に苦慮している。 【窯業・土石】
 - 震災により2~3ヶ月停滞したが、復興工事及び進行中の工事が重なれば、需要増が見込まれる。 【窯業・土石】
 - 海外生産移転による受注減により、先行き不安がある。 【鉄鋼・非鉄】
 - EU不況、タイ水害、円高、風評被害など、不安要素がたくさん有る。今は良いが、先行きは暗い。 【金属】
 - 当いわき地区は、原発事故の収束に対する不安が大きく、経済と産業に重圧をかけている。将来が不安である。 【金属】
 - タイの洪水の関係で、お客様が被災し、納入停止が3ヶ月間続きます。当社の売上の約1/3に当ります。 【金属】
 - 海外に仕事が流れて空洞化が進んでいる。 【一般機械】

○ 超円高により発注先(親企業)よりのコスト削減要請、及びEU、アメリカの経済動向と中国の関連により、先行きが非常に不透明です。	【一般機械】
○ 円高の影響が出始めている。1ドル=80円にはなってほしい。	【一般機械】
○ 2月迄仕事が入っていますが先行き不透明。	【一般機械】
○ 先行不透明感が続いております。	【電気機器】
○ 今年は震災と原発事故とでまったく異常な時で、県内はいついどうなってしまうのだろうと不安が積みとった年でした。年明けからのマインドの変化を注視して行きたいです。	【電気機器】
○ 客先の海外生産移転による受注減が懸念される。	【輸送用機器】
○ 欧州債務問題、中国を中心としたアジアの景気のスローダウン、円高と不安材料が多く、先がなかなか見通せない。	【輸送用機器】
○ 欧州情勢が不安なことと円高が影響し、業況は悪化すると予想される。	【輸送用機器】
○ 短納期対応のため、先の受注が読めない(受注残高が少なくなる)。安定した生産計画が組めない。	【精密機器】
○ タイの水害などの特需要因が有り、現状は忙しい状態です。しかし円高なこと有り、それ以外は決して良くありません。	【輸送用機器】
○ 原発事故の風評被害による顧客減少、なんとかならないものか。	【漆器】
○ 昨年よりやや上向いたことは、震災支援事業による注文があったため、今後の売上には期待出来ない。	【プラスチック】
○ 家電(特にテレビ)関係の梱包材の受注が、ほとんどないような状況。海外への生産移転が加速している状態です。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	40.6
先行き	8.1
前回比	51.1

対象企業	66
回答企業	37

業況で大幅改善、売上・採算で改善、資金繰りでわずかに改善を示した。業種別にみると「土木」は業況・売上で大改善、採算で改善、資金繰りでわずかに改善を示し、「建築」は業況・売上で大改善、採算・資金繰りでわずかに改善を示した。3か月先見通しは業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化を見通している。業種別でも同様に「土木」「建築」共に業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化を見通している。「近頃は復興需要が落ち着きつつあり、競争の激化が始まっている」「現況は需要旺盛であり、平成24～25年度も息切れしそうにないが、その後は建設業にとって厳冬の時代になるかと予想される」といった声があった。

自由意見

建設業

○ 近頃は復興需要が落ち着きつつあり、競争の激化が始まっている。	【建築】
○ 現況は需要旺盛であり、平成24～25年度も息切れしそうにないが、その後は建設業にとって厳冬の時代になるかと予想される。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-30.4
先行き	-24.0
前回比	10.1

対象企業	114
回答企業	79

業況・採算でわずかに改善、売上・資金繰りで横ばいを示した。業種別にみると、業況は「飲食料」「建築材料」「その他」で改善、「青果物」「鮮魚」で横ばい、「機械器具」でわずかに悪化、「衣服」で悪化を示した。3か月先見通しは、業況・売上・採算でわずかに改善、資金繰りで横ばいを見通している。業種別にみると、業況は「衣服」「飲食料」「青果物」で改善、「その他」でわずかに改善、「鮮魚」で横ばい、「建築材料」でわずかに悪化、「機械器具」で悪化を見通している。「震災による閉店の企業があり、売上が10%ダウンしている。他既存店が伸びて来ているが、昨対100%にとどかない」「原発事故の放射能被害で本県海産物の水揚げは無く、他県商品は高くつくため顧客も減少、中央市場は大変苦慮している」という声の他に、「放射能除染関連商品は売れているが、農業関連商品の販売は先行不透明で心配」また「原発事故関連の復旧に伴う材料の出荷は好調」という声もあった。

自由意見

卸売業

○ 震災後営業エリアが半減。事業継続が厳しい。	【衣服】
○ 米穀販売が主力のため原発事故の放射能による風評被害に直面し、対応に苦慮している。実績にも多大な悪影響を及ぼしている。	【飲食料】
○ 震災による閉店の企業があり、売上が10%ダウンしている。他既存店が伸びて来ているが、昨対100%にとどかない。	
○ 当社、震災にて宮城、岩手地区の取引先が90%激減。関東地区取引先も風評被害にて売上減。	【飲食料】
○ 原発事故の為、新たな商品の生産ができない。さらには、風評被害で販売単価が下落。	【青果物】
○ 今、最優先すべきは放射能対策であり、貴センターを含め、行政全体として経済活性化対策の具現化が望まれる。	【青果物】
○ 放射能被害により福島観光や卸・小売業は最悪になりそう。早急な補償対策が望まれる。	【青果物】
○ 震災の被害と原発事故の放射能被害で、取扱っている青果物の販売に苦労して居ります	【青果物】
○ 原発事故により水産関係は最悪です。	【鮮魚】
○ 原発事故の放射能被害で地元海産物の水揚げは無く、他県商品は高くつくため顧客も減少、中央市場は大変苦慮しております。	【鮮魚】
○ 震災後、2～3ヶ月間は資材の調達で円滑でなく、職人不足もあり、受注後の工期も長引き、忙しいわりには、採算はあまり良くない状況です。	【建築材料】
○ 原発事故関連の復旧に伴う材料の出荷は好調です。	【建築材料】
○ 放射能除染関連商品は売れているが、農業関連商品の販売は先行不透明で心配。	【その他】
○ 原発30km圏内の売掛金の回収ができない。	【その他】

<小売業>

業況DI値	
今回	-28.2
先行き	29.5
前回比	8.4

対象企業	144
回答企業	82

業況・売上・資金繰りで横ばい、採算でわずかに改善を示した。業種別にみると「中小スーパー」は業況・売上・採算で改善、資金繰りで大幅改善、「衣料」では業況で改善、売上・採算・資金繰りでわずかに改善を示したのに対し、「自動車販売」は業況でわずかに改善も、売上で悪化、採算・資金繰りでわずかに悪化、「家具・建具」は業況・採算・資金繰りで悪化、売上でわずかに悪化を示している。

3か月先見通しは、業況・売上・資金繰りで横ばい、採算でわずかに改善を見通している。

業種別にみると「自動車販売」は業況・採算・資金繰りでわずかに改善、売上で大幅改善、「飲食料」は業況・売上でわずかに改善を見通したのに対し、「中小スーパー」では業況・採算・資金繰りで悪化、売上で大幅悪化、「家電品」は業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに悪化、「家具・建具」は業況・売上で悪化、採算・資金繰りで横ばいを見通している。

「原発事故による風評被害は会津にも影響が出ています」「放射能検査で未検出なのにもかかわらず、福島県産というだけで農作物が売れない」という声がある反面、「他県からの観光客の回復はまだ遅れているが、県内や市内からの来客は多い」また「市内の人口増は小売・飲食にも大きくプラスになっている。あと1～2年はこの状況が続くとは思う」といった声もあった。

自由意見

小売業

- 原発事故の風評被害でお客がほとんど来なくなり、売上が大きく減少し、頭が痛いです。【中小スーパー】
- 震災、原発事故による精神的、経済的影響がまだまだ長く続くことと、もし消費税がこれ以上上がったら売価に転化できず、商店の負担になってしまうことへの不安があります。【衣料】
- 震災により被害を受けたため、地元での売上確保は今後大変です。【衣料】
- 原発事故に津波、震災の三重苦で何とも言いようがありません。将来がとても不安です。【飲食料】
- 原発事故による風評被害は会津にも影響が出ています。【飲食料】
- 現在の業況で問題は無い、と感じております。【飲食料】
- 原発事故後は最悪でしたが、現在は平成22年の対月くらいまでは戻って来た様な気がします。ただし、先行き予想は不透明。【飲食料】
- 原発事故の放射能風評被害が、不景気の最大の元です。【飲食料】
- ギフトシーズンに入っても、風評被害で東京の上客から注文が入ってこない。【飲食料】
- 食品(米)のみの取扱いなので、風評被害がますます拡大しています。【飲食料】
- テレビ、冷蔵庫、エアコン等、大型品の需要が少なく、売上は減少している。【家電品】
- 風評被害でネット販売の売上がゼロの月が続いている。先行き不安です。【その他】
- 今後に向けて期待は大きいのですが、どうなる事か。【その他】
- 放射能検査で未検出なのにもかかわらず、福島県産というだけで農作物が売れない。【その他】
- 第1、2原発の運転停止、双葉地区の工場の操業停止により受注が激減した。【その他】
- 他県からの観光客の回復はまだ遅れているが、県内や市内からの来客は多い様です。【その他】
- 相馬市～新地町の営業は、約50%の悪化。南相馬市～浪江町の営業は、約99%の悪化。【その他】
- 来年度の売上回復見込みは、期待出来ず。【その他】
- 市内の人口増は小売・飲食にも大きくプラスになっている。あと1～2年はこの状況が続くとは思う。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-6.9
先行き	-29.3
前回比	25.1

対象企業	104
回答企業	58

業況・売上・採算・資金繰りの全てで改善を示した。業種別にみると「タクシー」「自動車整備」は共に業況・売上・採算・資金繰りの全てで大幅改善、「観光旅館」は業況・売上でわずかに改善、採算で大幅改善、資金繰りで改善、「情報サービス」は業況で大幅改善、売上・採算・資金繰りで改善を示したのに対し、「運送」は業況でわずかに悪化、売上・資金繰りで横ばい、採算で悪化を示した。

3か月先見通しは業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化を見通している。業種別にみると「タクシー」「情報サービス」は共に業況・売上・採算・資金繰りの全てで悪化を見通し、「観光旅館」は業況・資金繰りで悪化、売上・採算で大幅悪化、「自動車整備」は業況・採算・資金繰りで悪化、売上で大幅悪化を見通したのに対し、「運送」は業況・売上でわずかに改善、採算で改善を見通している。

「原発事故の風評被害が福島県全体の景気低迷の元である。一刻も早い収束が望まれる」「原油高で燃料費が下がらず苦慮」という声や、「今年は6月から半年間大変忙しい年だったが、3ヶ月先の予測がつかない」といった声があった。

自由意見

サービス業

- 原発事故の風評被害が福島県全体の景気低迷の元である。一刻も早い収束が望まれる。【タクシー】
- 原油値上がりのため、燃料費が下がらない。【運送】
- 原発事故発生以来、風評被害による影響で県産米の出荷が大幅に減少し、また燃料価格も高止まりで推移している為、経営にあたる影響は大きい。【運送】
- 先行き不透明。【自動車整備】
- 今後従業員が減少傾向になると思われます。【自動車整備】
- 3ヶ月先の予測がつかない。今年は6月から半年間大変忙しい年でした。【自動車整備】
- とにかく、働く人が見つからない。【情報サービス】
- お店のお客様はだんだん少なくなるばかりです。外での仕事(婚礼及び出張撮影等)がある為、少しは良いと思う。H24年1月、2月は苦しいと思います。【その他】